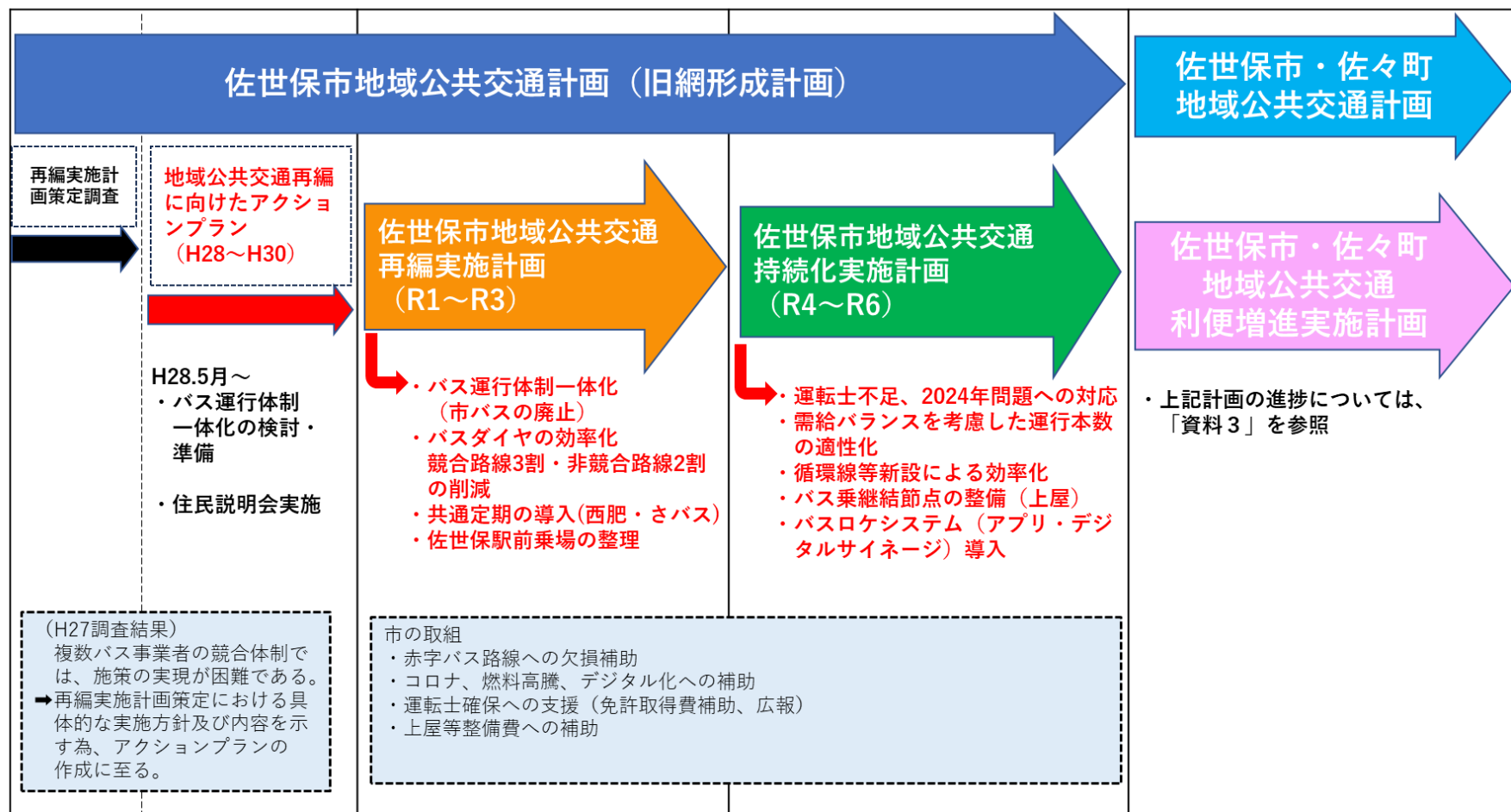


佐世保市地域公共交通計画(旧地域公共交通網形成計画)の実施結果について

地域公共交通計画等策定の経緯



平成27年6月

平成31年3月

令和4年3月

令和7年4月

令和12年4月

3議題(2)佐世保市地域公共交通計画(旧佐世保市地域公共交通網形成計画)の実施結果について

地域公共交通計画の目標到達状況について

目 標	指 標	指標設定時	令和6年度の状況	目標値 (令和6年度)
まちづくりの軸となる利便性の高い公共交通ネットワークを形成する	「離島を除く地域拠点（都市核・地域核・生活核）が鉄道又は路線バスで結ばれている」割合を維持する	100% (H26年)	100%	100%
	「通勤・通学における公共交通（鉄道・バス等）の利用率（分担率）」を維持・増加させる	18.5% (H22年) 国勢調査より	15.7% (R2年) 国勢調査より	19.0%
	「交通不便地区対策の実施箇所数」を増やす	3か所 (H26年) 中通、大野、世知原	10か所 (追加) 日宇	11～12か所
複数モードの連携により公共交通ネットワーク全体の利便性を確保する	「複数の交通モード間の連携策」を増やす ―①複数交通モード間の連携に関する情報提供等の取り組み件数 ―②複数交通モード間の利用における割引制度等の導入件数 ―③パーク＆ライドの件数	9件 (H26年) ②サンキューバス・スマートカード・観光パスポート③6件	14件	19件
利便性を維持した持続可能なバス事業を実現する	「乗合バス路線における実車走行キロあたり利用者数」（運行効率を表す指標）を維持・増加させる	1.31人／キロ (H25年度) 事業者データ合計値	1.35人／キロ (R6年度) 事業者データ合計値	1.48人／キロ
	「乗合バス事業の収支率（経常収益÷経常費用、補助金を除く）」を改善する	94.4% (H25年度) 事業者データ合計値	86.5% (R6年度) 事業者データ合計値	100%
公共交通の利用促進・需要創造を推進する	「地域が連携して企画・実現した利用促進の取り組みの数」を増やす	0件 (H26年)	3件	8件
	「通勤・通学における公共交通（鉄道・バス等）の利用率（分担率）」を維持・増加させる	18.5% (H22年) 国勢調査より	15.7% (R2年) 国勢調査より	19.0%
	「通勤・通学定期券・敬老福祉特別乗車証以外の利用者（来訪者含む）」を維持・増加させる	1100万人／年 (H25年度) 事業者データ合計値	399万人／年 (R6年度) 事業者データ合計値	756万人／年
	(参考) 利用者全体	1963万人 うち上記割合 56.0%	1086万人 うち上記割合 36.8%	

佐世保市地域公共交通計画の評価等結果(H27年6月～令和7年3月)

	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組
1	「離島を除く地域拠点(都市核・地域核・生活核)が鉄道又は路線バスで結ばれている」割合を維持する H26年度 100% ➡ R6年度 100%	・基幹的なバス路線についての運行の等間隔化 ・補完的なバス路線における時間帯別の需給バランスを踏まえた系統・ダイヤ等の改善 ・交通結節点の整備	交通事業者からの提供データにより確認	・計画期間内において運転士不足等によるバス・鉄道の減便が生じたものの、地域拠点間の路線廃止は行われておらず、目標を達成することができた。	・「佐世保市・佐々町地域公共交通計画」における基本方針に従い、引き続き広域交通・基幹交通・補完交通を担うバス・鉄道の路線の維持に努める。
2	「通勤・通学における公共交通(鉄道・バス等)の利用率(分担率)を維持・増加させる H26年度 18.5% ➡ R6年度 19.0% (H22国勢調査)	・基幹的なバス路線についての運行の等間隔化 ・補完的なバス路線における時間帯別の需給バランスを踏まえた系統・ダイヤ等の改善 ・交通結節点の整備	国勢調査の統計データにより確認	・R2年度 15.7% ・10年ごとの国勢調査の指標であり、R2年度の数値が計画期間内における実績額となる。 ・公共交通の利用率減少の要因としては、自家用車の利用増加に加え、調査時点におけるコロナ禍の影響が大きく、公共交通の利用が大きく減少したと考えられる。	・同指標については、「佐世保市・佐々町地域公共交通計画」における計画目標としており、引き続き公共交通の利用維持に努める。
3	「交通不便地区対策の実施箇所数」を増やす H26年度 3箇所 ➡ R6年度 11～12箇所	・交通不便地区対策の充実 住宅地等:路線定期型の乗合バス及び乗合タクシーを導入 郊外:区域運行型デマンドタクシーを導入	佐世保市データにより確認	・R6年度 10箇所 ・路線バス廃止地区及び交通空白地区への区域運行型デマンドタクシー等の導入を行い、交通不便地区対策を行い、生活交通路線の維持を図った。 ・コロナ禍等の影響もあり、導入地区数を増やすことができず、目標を達成できなかった。	・「佐世保市・佐々町地域公共交通計画」における基本方針に従い、引き続き地域・交通事業者と連携した交通不便地区における生活交通の確保に努める。
4	「複数の交通モード間の連携策」を増やす ①複数交通モード間の連携に関する情報提供等の取り組み件数 ②複数交通モード間の利用における割引制度等の導入件数 ③パーク＆ライドの件数 H26年度 9件 ➡ R6年度 19件	・複数交通モード間での全国相互利用交通系ICカード「ニモカ」の導入 ・MR相浦駅の遊休駐車場の活用 ・MR佐々駅・佐々バスターミナルにおける連絡ダイヤの調整等	交通事業者からの提供データにより確認	・R6年度 14件 ・R2年度以降、コロナ禍及び物価高騰等による厳しい経営環境下において、交通事業者における連携施策数の増加が見られなかった。	・「佐世保市・佐々町地域公共交通計画」における施策(乗継利便性向上等)の実施により、引き続き交通モード連携による移動円滑化を図る。

佐世保市地域公共交通計画の評価等結果(H27年6月～令和7年3月)

	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組
5	「乗合バス路線における実車走行キロあたり利用者数」(運行効率を表す指標)を維持・増加させる H26年度 1.31人/キロ ➡ R6年度 1.48人/キロ	・需給に応じたサービスの適性化 ・中心市街地に乗り入れる競合区間の見直し及び郊外の非競合区間の運行頻度の維持又は向上を推進。	路線バス事業者からの提供データにより確認	・R6年度 1.35人/キロ ・R4年度以降、R6年度においては、減便に伴う走行キロ数の減少及びコロナ禍後の利用者数の回復により運行効率が上昇しているものの、コロナ禍における利用人数の大幅な落ち込みより目標達成ができなかった。	・「佐世保市・佐々町地域公共交通計画」において利用者数の維持を計画目標の一つとしており、路線再編や運転士確保等の施策の実施により、引き続きバス路線維持及び運行効率化に努める。
6	「乗合バス事業の収支率(経常収益÷経常費用、補助金を除く)」を改善する H26年度 94.4% ➡ R6年度 100.0%	・需給に応じたサービスの適性化 ・中心市街地に乗り入れる競合区間の見直し及び郊外の非競合区間の運行頻度の維持又は向上を推進。	路線バス事業者からの提供データにより確認	・R6年度 86.5% ・R4年度以降、R6年度においては、コロナ禍後の利用者数の回復により収支率は改善しているものの、コロナ禍における運送収入の大幅な落ち込みより目標達成ができなかった。	・「佐世保市・佐々町地域公共交通計画」において交通事業収支の向上を計画目標の一つとしており、交通資源の活用や運転士確保等の施策の実施により、引き続き交通事業者の持続的な経営環境の構築に努める。
7	「地域が連携して企画・実現した利用促進の取り組みの数」を増やす H26年度 0件 ➡ R6年度 8件	・公共交通ふれあいフェスタでのチラシ作成等、県立大学生との連携 ・子育て支援団体からの意見を基にした路線バス内でのベビーカーベルト導入	交通事業者からの提供データにより確認	・R6年度 3件 ・R2以降、コロナ禍によるイベントの自粛等により、地域との連携が思うように進まず、目標達成ができなかった。	・公共交通利用促進のため、させぼ公共交通ふれあいフェスタ等を通じて、引き続き交通事業者、地域と連携した事業への支援を行う。
8	「通勤・通学定期券・敬老福祉特別乗車証以外の利用者(来訪者含む)」を維持・増加させる H26年度 1,100万人/年 ➡ R6年度 756万人/年	・デジタルー日乗車券の導入、「My route」のサービス開始(西肥自動車㈱、させぼバス㈱、MR) ・Googleマップへの経路検索の情報掲載(西肥自動車㈱) ・車内運賃表示器等への多言語化対応(西肥自動車㈱、させぼバス㈱、MR) ・バスロケーションシステム、スマートバス停の導入(西肥自動車㈱)	路線バス事業者からの提供データにより確認	・R6年度 399万人/年 ・R2以降、コロナ禍により、現金利用者数の大幅な落ち込みが見られ、その後のコロナ前までの回復に至らず、目標達成に至らなかった。	・「佐世保市・佐々町地域公共交通計画」において利用者数の維持を計画目標の一つとしており、バスロケーションシステムの利用促進および交通環境の施設改善等利用者の利便性向上・利用促進を図る施策の実施により、引き続きバス路線維持に努める。

3 議題(2) 佐世保市地域公共交通計画(旧佐世保市地域公共交通網形成計画)の実施結果について

R6年度市内路線バスモニター活動報告について

実施期間 : 令和 6 年 6 月 7 日～令和 7 年 3 月 3 1 日
モニター人数 : 7 名
モニター会議 : 2 回開催
報告件数 : 乗務部門 1 2 9 件 非乗務部門 5 件 合計 1 3 4 件

運転操作、接客マナーに関して 8 割程度は良い報告でしたが、残りの 2 割は行先肉声案内、発車時及び停車時の肉声案内が不明瞭である等の指摘がありました。

モニターからのご指摘については、バス事業者において接客接遇や安全運転の指導に反映させ、改善に努めているとのことでした。

主な意見については下記のとおりです。

【乗務部門】

(1) 運転操作について

- ・カーブの運転が荒く、取っ手につかまっていなければ横に倒れそうでした。急停車、急発進、運転が荒い。
- ・乗客が多かったが、安全運転でアナウンスも的確だったため、安心して乗ることができた。

(2) 接客マナー（車内アナウンス等）について

- ・全くアナウンス（運転士肉声）はありませんでした。立っている乗客がいたので、発車時のアナウンスはしてほしい。
- ・お客様にされた質問に対しても言葉きつめに話されていた。肉声案内は時折あるが、行先のみ、単語のみの案内だった。
- ・左折の際に「左に曲がります。揺れます。」等アナウンスがあると、立っている乗客への配慮が感じられる。
- ・安全運転で、お礼をきちんとしてくれたので気持ちよかった。

【非乗務部門】

(3) 接客マナーについて

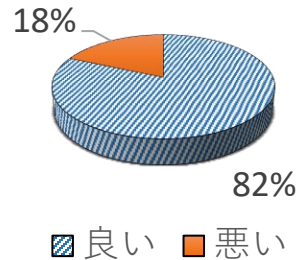
- ・初めて、高速バスを利用する際、詳しく説明していただき安心しました。
- ・バスの中での忘れ物対応は非常に適切で素晴らしかった。利用者の立場に立ったホスピタリティ溢れた対応に感動しました。

R6モニター評価について

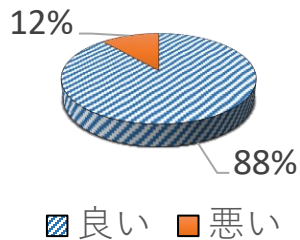
- 令和6年度の運転士（西肥バス、させぼバス合計）に対するモニター評価のうち、運転操作については、約9割が良い評価であったものの、乗務員接客マナーについては、車内肉声案内等についてのモニターからのご指摘があり、約7割に留まっている。

事務員については、窓口接客における言葉使いや親切・丁寧な対応等により約9割が良い評価である。

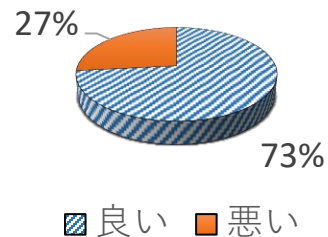
合計（運転士）



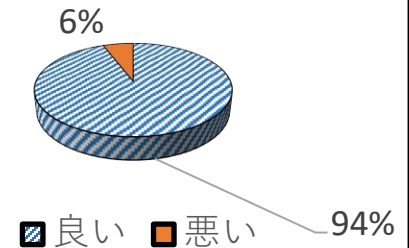
運転操作（運転士）



接客マナー（運転士）

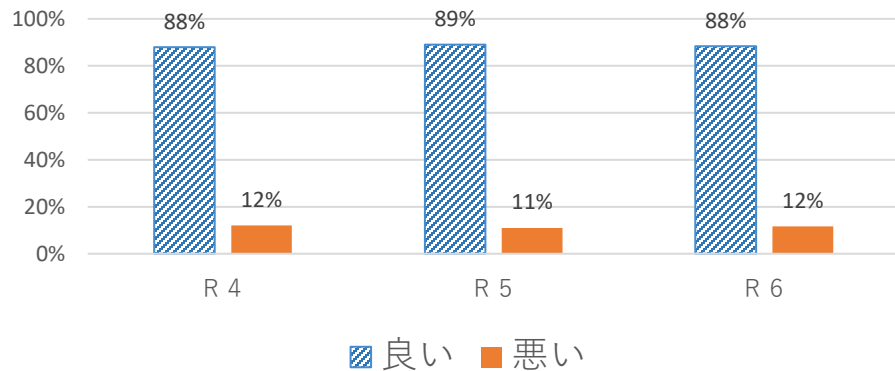


接客マナー（事務員）

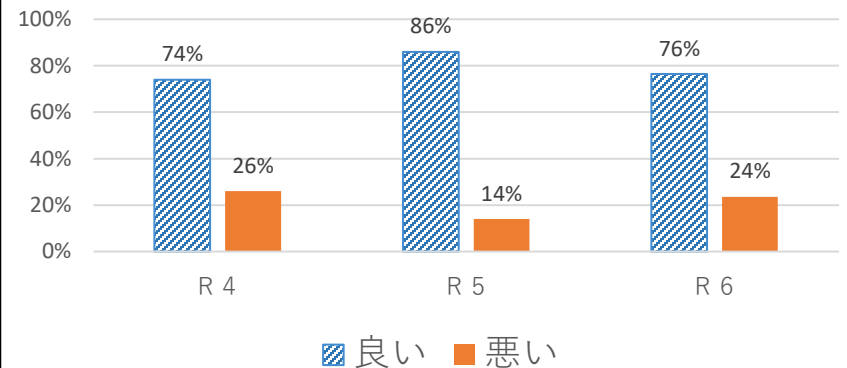


R4～R6モニター評価について(運転士・年度比較)

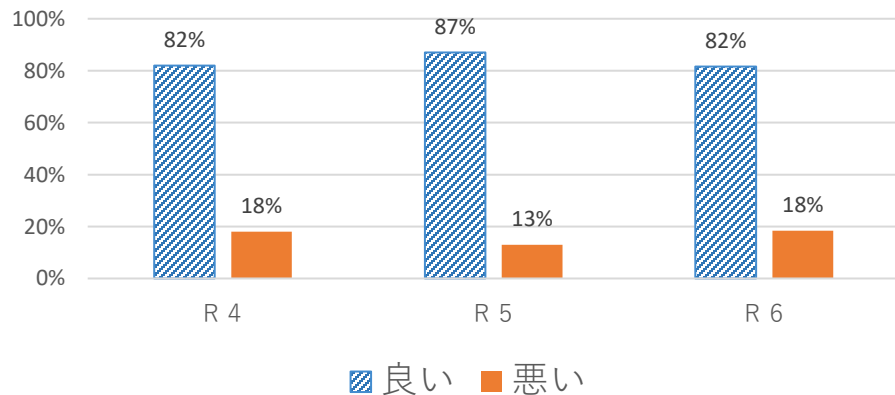
西肥バス (運転士)



させばバス (運転士)



合 計 (運転士)



- ・ R 4 年度から R 5 年度にかけて、全体的に、運転士の運転操作、接客マナーに対するモニター評価の向上が見られたが、R 6 年度は R 5 年度に比べやや評価が下がっている。(良い87%→82%)
- ・ 会社別にみた場合、西肥バスの評価が横ばいであることにに対し、させばバスにおいては R 5 年度に比べ R 6 年度は 10% ほど評価が低下している。